

## 第1回豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員会 会議録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員会
事務局（担当課）		教育部庶務課
開催日時		令和2年11月30日（月） 午後4時～午後5時
開催場所		教育部会議室
議 題		(1) 豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員会設置趣旨について (2) コミュニティ・スクール制度について (3) 豊島区コミュニティ・スクールモデル事業について (4) コミュニティ・スクールの土台となる豊島区の取り組みについて (5) 意見交換
公開の 可否	会 議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区審議会等の会議の公開に関する要綱第4条第1項第3号 各委員の所感・感想・意見等を忌憚なく発言して頂くため
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	柴田 彩千子（委員長）、山本 聖志、野村 友彦、小林 豊茂、 清田 明、松浦 和代、青木 正典、山本 道子、御代 恒、 岡 将太、安藤 和子、高橋 京子
	そ の 他	教育施策推進担当課長、指導課長
	事 務 局	教育部庶務課教育施策推進グループ

# 審 議 経 過

No. 1

教育施策推進 担当課長	議第（１）～（４）について説明
委員長	事務局の説明について、質問・意見はあるか。
A 委員	<p>豊島区は、みなさんご存じの通り、地域が学校に対して協力的だという土壌がある。ほかの地区で校長をしてきた経験があり、その地区では CS の指定を受けていた。その指定を受けないとなかなか学校に対する地域の力を結集できなかった経験がある。豊島区では、どこの小中学校も地域によって支えられているという実感を持っている。</p> <p>論点を整理しているが、大きいと思うのは学校運営連絡協議会、私どもは学運協と言っているが、CS の学校運営協議会も略せば学運協になってしまう。学校運営連絡協議会が現在多くの学校で行っている会議体、CS が新しい形。学校運営連絡協議会のこれまでやってきた成果は否定されるものではない。豊島区は歴史的に地域に支えられている。また、町会長や育成委員はじめ地域の方々力が貸してくれる。それは積極的に評価をしなければ、各学校は今までとの違いが分からない。</p> <p>これまで豊島区が行ってきた、学校運営連絡協議会の評価・成果を前面に押し出したうえでこれをどう変えたいのか。課長が今いろいろな資料を使って説明したが、何をどう変えたいのか方向性が見えてこない、学校や地域が何を進めるべきなのか見えない。</p> <p>併せてゴールの観点で、展開と言ったり拡大と言ったり、学校運営連絡協議会の全校化を目指すのかどうかというのが今日の説明からはまだ分からない。全校化を目指すのであればそのように言っていただき、いつまでに、どのように、を検討委員会のなかで鮮明にしないと投げられた学校はイメージがつかみにくい。ゴールの部分を少し整頓するとよい。</p> <p>また、学校運営連絡協議会のほかにインターナショナルセーフスクール（以下「ISS」という）は絶大な力をいただいて取り組んでいる。安全・安心を中心とした取り組みで、それをさらに広く行うのが ISS。学校運営連絡協議会と ISS を併存させるのか、発展的解消をしていくのか、そのあたりが配布資料「CS 論点整理（事務局案）」の資料を拝見しただけではまだ分からない。モデル校の取り組みが参考になると思うので、次回の検討委員会で、どのような取り組みを行っているのか示してもらえれば整頓されていく。</p> <p>いかんせんゴールのイメージ・時期の問題・予算の使用用途等がまだ曖昧で</p>

委員長	<p>今の段階で分かりづらいところがある。検討委員会を進めていく中でこれらが鮮明になって、それぞれの学校、地域へ豊島区が考えている CS の姿が示されれば、混乱なく進んでいく。</p> <p>ありがとうございます。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>いろいろとご指摘ありがとうございます。</p> <p>おっしゃる通り学校運営連絡協議会と学校運営協議会とでどう変わるのか明確なところを示していない。</p> <p>今ご説明したところで不明瞭ではあるが、ISS の地域対策委員会と学校運営連絡協議会を将来的に一緒にしていくことも、この検討委員会でご意見いただきながら考えていきたい。</p> <p>ゴールの話、いつまで、全校化を進めるのかどうするのかは最終的に教育委員会で決定する事項ではあるが、今後の検討委員会での議論、皆様の意見をもらいながら考えていきたい。</p> <p>私も今年度の 4 月に教育委員会事務局に参りまして、学校運営連絡協議会と CS が明確にどう変わるのか分からなかった。今も明確に皆様に説明ができない状況ではあるが、皆様のご意見や他自治体の事例を紹介しながら検討させていただきたいというのが、事務局としての考え方である。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>質問のあった予算についての、例というのはどういったものか。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>現在は、委員の皆様の報償や需用費という消耗品を買うようなものしかない。今後、導入を拡大していく時には、活動の場所と予算を、CS の事業として 1 校いくらかという形であったほうが活動しやすいという意見をいただいている。いくらぐらい必要なのか、どういった活動でどう使うのか、というところも今後検討していかなくてはいけないということで記載している。</p>
委員長	<p>重要な論点を言っていただきありがとうございました。</p> <p>ほかに、意見や質問はあるか。</p>
B 委員	<p>感じたことを述べさせていただきたいと思う。</p> <p>今まで学校運営連絡協議会に委員として参加し、モデル事業として千登世橋中学校に CS 委員として入って 1 年間、今年はコロナ感染拡大で普段とは大きく違い、難しいとは思う。</p>

<p>委員長</p>	<p>感じることは、学校運営連絡協議会は学校主導。CS になって、委員長という立場に立ち、議長役として仕切る立場になってみて、今までの学校運営連絡協議会より参加している委員の発言なり、前の学校運営連絡協議会が全然発言させないという訳ではないが、我々参加している委員の発言が大きく変わったと感じる。</p> <p>研修で講師の方からいろいろ言っていた中に、これから CS の委員が学校をまず知るということから入っていくとおっしゃっていた。学校との関係を少しずつ築いていって、導入してからすぐに機能するものではないと思う。時間はかかると思うがやっけていかないと進まないと感じた。</p> <p>ありがとうございました。従来の学校運営連絡協議会は学校が主体で、CS の学校運営協議会は学校を核とした地域づくりを進める視点から地域が主導していくことが大きな違いでないかとの意見。</p> <p>他に意見や質問のある方。</p>
<p>C 委員</p>	<p>私もずっと学校運営連絡協議会と ISS 地域対策委員会に携わっている。</p> <p>学校運営連絡協議会は、学校主導型で年に 3 回の学校評価を行っている。一方的に学校に対し、保護者の評価、地域から見た学校の評価というのが中心。文成小学校と池二小学校が分かれていた時からずっと池袋本町小学校を見ているが、ISS はまず安全・安心の学校づくりが中心。安全にはどうしたらいいか、その時は育成委員の立場だったので、育成委員会での見回りを打ち出して、4 年間くらいずっと毎週見回りをしている。委員や地域の方々が、子供たちとコミュニケーションをとり、繋がりを持つことで、学校を見ながら安全で登校して安心して学校で過ごせるようしていた。</p> <p>今度は CS と言われて、いろいろ読んだが、何をすると CS になるのかまだあまり響いてこない。そこをもっと煮詰めて話していただければ。</p> <p>今後、学校運営連絡協議会と ISS がある中で CS を作っていくということは、学校と地域での協議を大事にして、進めていくという解釈か。そこをもう少し詳しく知りたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>事務局お願いします。</p>
<p>教育施策推進 担当課長</p>	<p>学校運営連絡協議会と CS は機能が似ているため、CS を本格実施するにあたって学校運営連絡協議会を CS に昇華していくことを考えている。</p> <p>ISS の地域対策委員会は、安全・安心を柱として学校と地域で協議をして活動を行うので、非常に似ている。ISS を進化させ CS にしていくのが豊島区</p>

委員長	<p>らしい CS の姿なのでは、と事務局では考えている。</p> <p>実際の整理の仕方、どういう形で安全・安心の柱を持っていくのか、まだ形としてお示しができないところではあるが、土台となる似た部分をどのように CS に昇華していくかは検討委員会の中で検討したいと考えている。</p> <p>重要な論点だと思う。例えば、学校の窓口を一本化して、既存の学校運営連絡協議会と ISS の地域対策委員会、それから CS の関係性をどう作っていくのか次回以降、具体的に議論していきたい。きっと委員が重複することが多いと予想されますので、そういった視点を次回以降しっかり議論していければと思う。</p>
D 委員	<p>中央町会の町会長や、PTA 会長をする中で、先生は本当に大変だと現実としてよく見える。</p> <p>先日、テレビ番組のドキュメンタリーで教職員の働き方改革について、週 100 時間残業をしている先生がいる、これは過労死レベルであって、教員を増やすか業務を減らすかをどう選択していくかというのをやっていた。</p> <p>公立学校と私立学校では特色が違う。私立学校は、学力・道徳・スポーツ活動であったり、文化活動であったり、思想教育であったりいろいろ特色を持ってやっている。公立学校は、義務教育の中で公平にということが大前提にあり、できない子を切り捨てる、できる子を先に伸ばすということがやりにくいと思う。</p> <p>これからはシビックテックとあって、市民とテクノロジーをうまく融合させ、先生に代わってできることは地域の人ができる仕組みを作っていくないと、何でもかんでも先生に丸投げしてしまっている。</p> <p>CS において池袋本町小学校で素晴らしいと思うのは、池袋中学校もそうですが、地域が主体的に関わっていること。田植え・藍染はグリーンボランティア、消防体験は消防団、相撲大会も宮本青年会が氷川神社の土俵を使って毎年やっている、どじょう掴みは育成委員会が行い、委員会の方でお金を用意して行っている。</p> <p>池袋中学校では地域課題に対して中学校の生徒が協力するというところを行っている。例えば、高齢者宅の訪問をふれあいグループがやっている。一人暮らしでなかなか外へ出て行きづらい方へ中学生が 2～3 人で行事の案内状も持っていくと大変喜ばれる。育成委員会で行っている地域清掃でカレーをみんなで作って食べる、障害者の運動会の運営委員をやる等の活動を行っている。それらが内申書の社会活動参加という評価の対象になっているため参加者も多い。大災害の際に地域の中学生に活躍してもらう必要があるため、防</p>

<p>委員長</p>	<p>災訓練に参加している。</p> <p>公立学校の特色として、地域課題と一緒に取り組むことを CS の柱とした方が、地域の方も分かりやすく、我々も学校の本音を引き出したいと考えている。</p> <p>お互いに持ちつ持たれつ、できることはできる人がやるというスタンスが良いのではないか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>事務局から何かあるか。</p>
<p>教育施策推進 担当課長</p>	<p>池袋本町という地域で池袋本町小学校と池袋中学校をメインに様々な教育活動を行っているのは聞いているが、具体的にどのような方が繋がっていて、どのように事業運営しているのか分かっていない部分もあるのでご紹介いただきありがたい。</p> <p>私立と公立、小学校と中学校で違う。中学校は地域課題に関与していくというのは、実際にやっているからこそその貴重な意見であると感じる。</p>
<p>委員長</p>	<p>地域側から学校側の教職員の過酷な状況を考慮して、やりたいという意見が出るのはさすが豊島区だと思う。地域側にとっても防災の視点から中学生の役割を期待する等の持ちつ持たれつの双方向性の関係が CS に必要だという貴重な視点をいただいた。</p> <p>他に意見・質問はあるか。</p>
<p>E 委員</p>	<p>配布資料「CS 論点整理（事務局案）」の中に、地域担当教員とコーディネーターの育成とあるが、地域担当教員は学校の中にいるが、コーディネーターは地域を知っていないとコーディネーターの役割は務まらない。子どもが主体となっている中で学校と家庭、地域を結びつけるラインを教育委員会はどうに考えるのか教えていただきたい。</p>
<p>教育施策推進 担当課長</p>	<p>大変苦慮する論点である。柴田委員長や文部科学省 CS マイスターの井上尚子先生にご相談したときにもコーディネーターが大変重要と聞いている。学校のこと、地域のことどちらも知っており、顔が広く、学校と地域を繋ぐことが出来るスーパーマンのような人が必要である。他自治体の事例を見ると、コーディネーターがしっかりしていると CS がうまくいっている事例が多い。かたや制度だけ決めて CS を導入しても、なかなか実践まで至らない場合がある。</p>

F 委員	<p>今後どのような人にコーディネーターをやってもらい、どのような活動を行うのか、予算にもつながっていき、導入ガイドラインを整理していくために必要な論点だろうと考えている。</p> <p>地域の方のリーダー・推進役は変わらないが、学校はリーダーである校長も教員も異動で定期的に変わってしまう。そのような中で、そういった地域の方々の暖かい言葉、声を学校が受け止めていくにはどのようにしたら良いか。地方に比べ、地域人材も豊富で、予算も潤沢な東京で CS 制度が名実ともに機能するにはどうすれば良いか。</p> <p>学校運営連絡協議会は学校主導型だとすれば、学校運営協議会は合議体である必要がある。学校主導型の学校運営連絡協議会の名前が変わるだけで合議体にはならない。</p> <p>校長がリーダーシップをとり、遠くから通っている教員が多く地域意識が低いこと、教員が異動することを考慮しながら学校が地域を意識し、学校経営の基本方針の承認を受けるといった意識改革が新しい CS の観点から必要になってくる。</p> <p>学校が行っていることを応援してもらえる協力的な地域の声を受け止めるため、学校側が地域を意識するようにしないといけない。</p> <p>ISS については、小学校では守られる子どもたちとして ISS の発想に十分に合致している。ISS の指標は、中学校のように地域で大人の一人となって守る側に立つ指標はないが、中学校は地域の一人の自覚をもってセーフコミュニティの若手の担い手としての意識を作る形で進めていかななくてはならない。もし ISS を残すのであれば中学校はセーフコミュニティの一人であるという自覚で線引きして持っていくべき。</p> <p>国が示す CS と豊島区型の CS に違いがあるのか、または、違いを鮮明にすべきなのかどうかをはっきりさせないといけない。豊島区型を鮮明にうっていかないと、メンバーが変わると合議体の学校運営協議会は形骸化してしまう。形ばかりの承認を得る形ではなく、豊島区型は大きく変えていく必要がある。</p> <p>豊島区型を考えるにあたり、豊島区教育委員会の教育目標に、人権尊重と社会に貢献する人材の育成を大々的に掲げており、地域貢献・社会貢献を学校はどう打ち出すのかということも CS において学校が示すことが重要であり、「地域を考える・意識する」に繋がる。</p>
委員長	<p>貴重な意見ありがとうございました。中学校はコミュニティの担い手を育成する視点を豊島区型の CS に取り入れるべきだという貴重な意見だと思う。</p>

<p>A 委員</p>	<p>他に質問や意見はあるか。</p> <p>学校が承認を得るというプロセスが CS を進めるうえでは非常に重要だと思う。他区で CS をしていた時に委員長から「先生は数年で学校を去るが、学校を支える地域の人はずっとそこにいる」と言われた。そのような思いで学校の強力なサポーターとして自覚的に活動してくれる人がたくさんいる中で、それをメリットとして生かしていく必要が大いにある。</p> <p>持続可能を教育に当てはめたときに、具体化する役割は CS のメインの役割にあると思う。</p> <p>もっと力を入れてほしいのは、PTA の役割。PTA は一番身近な学校教育組織であり、各学校でよくやったださっている PTA ・PTA 連合会の役割・位置づけを明記すると豊島区型 CS の強みとして加わるのではないかと。CS のメリット、いいところを抽出していかないと。スクラップ&amp;ビルドで何かを導入しようと思ったら、何かを削るくらいの覚悟がなくてはいけない。</p> <p>新しいことを導入することは学校側にも労力が必要になるが、CS の組織を活用することで、学校の省力化やメリットに繋がる強みはたくさんあると思うのでそのイメージを膨らませていきたい。</p>
<p>G 委員</p>	<p>PTA の関わりについて聞き、PTA で一番重要になるのは、意見を出すことよりも人を出すことだと思う。学校運営連絡協議会に何度か参加しているなかで、意見は出るが、地域、学校、PTA のどこが人材を出すのが課題になる。教員は業務的にパンパンであり、地域の方で会議に参加しているのは町会長などで実際に動いている方というよりは名誉職に近い方が出ることが多々ある。PTA に関しても会長は参加しているが副会長は参加していないので、その場で PTA がやりましようとはならない。会長だけでなく、副会長や実行している方が参加することでその場で PTA の総意が出せるのであれば、より具体的な会議の方向性が出せるのではないかと思う。</p>
<p>H 委員</p>	<p>小学校と中学校どちらでも PTA 会長を経験しているが、小学校と中学校では活動が違うと感じる。中学校は生徒も大人になり、地域と一緒に活動するのが難しく、手伝ってと言える環境ではない。保護者も積極的でないとは言わないが、小学校に比べ消極的な部分があり、人が集めにくい。SNS も発達しているので、そういった話もしているが、コロナの影響もあり、会うことができないので、この状態で活動するのは難しいと感じる。</p>
<p>委員長</p>	<p>中学生は、積極的に地域に参加しない世代とのことだが、仕組みがあれば仕</p>



	<p>組みの中で地域に参加できるようになるのではないかと。</p>
H 委員	<p>仕組みを作ってもらえた方が、やりやすいと思う。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p>
I 委員	<p>区民ひろばは、学校運営連絡協議会や ISS の委員会に参加していて、地域の方々と連携して活動している。</p> <p>地域のリーダーの方は必ずこのような会議体に参加されていて大体同じ顔触れになってしまうので、いろんな会議体を並行してやっていくのではなく、CS の学校運営協議会をメインに考えて整理していった方が地域の方も分かりやすいのではないかと感じている。</p>
J 委員	<p>子どもたちは地域に育てられている。大きくなっても地域に友人がたくさんおり、思い出がある。</p> <p>保護者が PTA に積極的に参加し関わっていくことで、教員の姿が身近になり、保護者同士の結びつきが強くなる。その力でもっと活発にできるといい。今年はコロナ禍で子どもたちの思い出が少なくなり残念であるが、活発に活動していただいている地域なので、協力しながらスキップも参加させていただきたい。</p>
K 委員	<p>子どもたちは地域の方々が声を掛けてくださることで安心して学校に通えていると感じる。</p> <p>教員は学校の中での子どもたちについては良く把握しており、学校運営連絡協議会でも学校の中での話はできる。地域の中でどういう風に暮らし、育まれているのか、家庭ではどうなのかをもっと聞き、膨らませていく合議体に豊島区型がなっていけばいい。</p>
委員長	<p>教育委員からのご意見で、外国にルーツを持つ児童・生徒・家庭もしっかり巻き込んで進めてほしいという要望があるので、その視点も次回以降、皆様のお知恵を拝借したい。よろしく申し上げます。</p>

<p>会 議 の 結 果</p>	<p>事務局からの説明について各委員からご意見を頂いた。</p>
<p>提出された資料等</p>	<p>(資料 1) 豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員会設置要綱  (資料 2) 豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員会について  (資料 3) コミュニティ・スクール制度について  (資料 4) 豊島区コミュニティ・スクールモデル事業について  (資料 5) CS の土台となる豊島区の取り組み  (参考資料 1) CS 研修資料 さあ、始めよう！でも、どうしたら？  「学校運営協議会の進め方」「地域学校協働活動との一体的推進」  (参考資料 2) 「コミュニティ・スクール 2018」 【文部科学省】  (参考資料 3) 2020 年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査について（概要）【文部科学省】  CS 論点整理（事務局案）</p>
<p>そ の 他</p>	